

クリスマス 01

「光が輝いている」

イザヤ書 9 章

1 闇の中を歩む民は、大いなる光を見
死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。

2 あなたは深い喜びと

大きな楽しみをお与えになり

人々は御前に喜び祝った。

ヨハネによる福音書 1 章

4 言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。

5 光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しな
かった。

* * * *

1) 私たちは闇に慣れてしまっていないか？

闇という言葉は重い感じがしますね。大きな災害と
か戦争による破壊とか

そういう出来事の中に闇を感じます。あるいは心の
中にある「隠しておきたい

自分の不毛の部分」「罪」「悪い習慣」などの中にも
闇を感じます。

でも、同時に、そういう闇の中に慣れてしまって、も
う仕方がない、この闇からは

脱出できないと感じてはいないでしょうか。

自分で「出口なし」という状況を作り出してしまっ
てはいないでしょうか。

2) その闇の中の光に希望を託しているか？

光の闇の中でこそ輝いて見えるものだと言われま
す。

光が届くと物事ありのままが見えます。そしてその
光が心に届くと

自分の有様が全て光の中にさらされ、否応なしに
すべてが露になります。

でも、その光が愛あるものであるとしたら、赦しが
あり、癒しがあるでしょう。

そして同時に光があることで、私たちは行先の道
標としてもそれを当てにしながら

前に進むことが可能です。昔の船乗りたちは星を
航路の道標にしたと言われています。

小さな星の光でも、きちんと行く先を示すものにな
るのです。

私たちにはそういう光が常に必要です。

自分の闇を照らす光。そして、行先を示す光です。

3) 救い主: 光である存在

ヨハネは「

4 言の内に命があった。命は人間を照らす光であ
った。

5 光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解し
なかつた。」

と書きました。言葉、いのち、ひかり、そのどれも私
たちに必要です。

神の言葉と神のいのち、そして神からの光です。

イエス様の言葉や生き方、応答を見ていると、神様
の言葉、命、光に触れる感じがします。

イエス様ご自身が「私は世の光です」と語られまし
たので、このお方に

繋がることで心が明るくされ、行先が明確になり不
安や絶望からの解放が

あるのです。

クリスマスとはキリストを礼拝するという意味の言
葉ですが、もとは「光の祭り」という日を土台にでき
た祝日とも言われています。

つまり、イエス様が 12 月 25 日にお生まれになっ
たという記録は聖書には書かれていないのです。

しかし、お生まれになったこと、世に来てくださった
ことは明確な事実ですし、光として来てくださったこ
とも確実なことです。

このお方のもたらす光があるからこそ、聖書の言
葉への気づきが生まれ聖書からの教えにうなづけ
るようにさえなるのです。

今年のクリスマス、光であるキリストを心に迎え入
れたらどうでしょう。

本当のクリスマスを祝うことにつながると思いま
す。

MACF の礼拝映像は

<https://youtu.be/RkuAM4hfoEY>